

彫刻家フリオ・エドゥアルド・ゴヤ氏の作品が小豆島に寄贈される

瀬戸内海の島・小豆島に、アルゼンチン日系 2 世の彫刻家フリオ・エドゥアルド・ゴヤ氏（65 才）のモニュメントが、今年 7 月 9 日（アルゼンチンの独立記念日）に設置され、盛大な寄贈のセレモニーが催された。

場所は、5 月に新装されたばかりの小豆島町役場の入り口である。作品名は「自然の恵み」で、幅、奥行き各約 2.5 米、高さ約 5 米。オリーブの島に敬意を表し、ギリシャ神話に出て来るオリーブを守る女神“アテナ”をモチーフとしている。赤の色はアテナ、緑はオリーブの樹、色のコンビネーション赤・緑・黄色は、瀬戸内の夕日、寒霞溪の紅葉をイメージしていると云う。



セレモニーの挨拶で、松本篤町長は、「町のシンボルになる」と寄贈主のゴヤ氏の好意にお礼を述べ、小豆島の島民が現代アートに触れる良い機会になるとゴヤ氏に感謝状を贈った。



ゴヤ氏は、1953 年ブエノスアイレスに生まれ、1983 年ブエノスアイレス国立美術大学を卒業、1985 年に来日、沖縄のアトリエを拠点に活動。1988 年、第 2 回ロダン大賞展で美ヶ原美術館大賞、1991 年、サントリー美術館大賞、1993 年、フジサンケイ・彫刻国際ビエンナーレ展で優秀賞を授賞している。

ゴヤ氏は数年前より、瀬戸内国際芸術祭が 3 年ごとに催されている瀬戸内海の島々に興味を持ち、昨年 8 月、小豆島町三都半島の神浦に空き家を借りて、第二のアトリエとしている。現在、来年の第 4 回瀬戸内国際芸術祭に参加すべく作品の構想を練っている。また、今後、このアトリエで、ラテンアメリカ・日本との文化交流を行うことも考えている。



セレモニーに参加した小豆島町町長、
町議会議員、役場の幹部職員と
フリオ・エドゥアルド・ゴヤ氏



1998年の日本・アルゼンチン修好100周年を記念し、ブエノスアイレスの中心街のヌエベ・デ・フリオ通りに、ゴヤ氏の折り紙の鶴をモチーフとしたモニュメントを設置している。2007年には、駐日アルゼンチン大使館で個展を催した

(平尾行隆 ひらおゆきたか：当協会会員、元三井物産勤務)